



[京都市の景観重要建造物]

景 016 (H18)

江戸中期から伏見で両替商を営み大豪商となった富田屋は、鳥羽伏見の戦いにより家屋が全焼した後の明治18年頃、日に千両の絹が動いたと言われる千両ヶ辻に呉服問屋として富田屋本社を建てました。

表屋裏手の玄関を挟んで主屋が建つ表屋造で、奥に座敷庭、中蔵、庭、宝蔵と続き、茶室や客間などがある離れが建っています。

表屋は、周囲の町家と比べて2階の階高が高く、明治時代の町家としては比較的珍しい形態です。

主屋1階の座敷に天袋戸、床柱や付書院で構成された床と床脇、金粉で装飾された欄間など上質な造作が施され、玄関東側の座敷には恵方に向けて「歳徳神」がまつられるなど、京町家の生活文化を感じ取ることができます。

昭和10年頃に建てられた離れの茶室は、武者小路千家官休庵九代目家元により「楽寿」と名付けられ、簡素なにじり口、赤松の床柱や張り分けられた市松張りの天井や簾天井など、数奇屋風の意匠で構成されています。

現在は「西陣くらしの美術館」として、失われつつある京町家での生活文化を広く伝えていくため、お茶席や華道などの文化体験、きものマナースクールなどを開催しています。



玄関庭



宝蔵扉



西陣くらしの美術館

〒602-8226 京都市上京区石薬師町697

電話番号 075-432-6701

FAX 075-432-6702

アクセス 市バス「一条戻橋・晴明神社前」徒歩3分

ホームページ <https://tondaya.co.jp/>